

中国での生活に欠かせない3つのモバイルアプリについて

今回は不動産に直接関連する情報ではなく、今年の中国出張中にモバイルアプリがなくて苦労した体験と、中国での生活に欠かせない3つのモバイルアプリについて紹介する。

1、不便さを感じた出来事

日本では、モバイルアプリがないことで生活上不便を感じたことはほとんどなかったが、今年の中国出張では、アプリがないことによる苦労を初めて経験した。

北京出張中、渋滞などを考えて時間的に十分な余裕をもって出かけたにもかかわらず、会議には遅れてしまうことがあった。北京ではタクシー配車アプリの使用が一般的であり、空車のタクシーが少なくなっている。加えて、その日は雨が降っており、タクシー配車アプリを使ってもなかなか車を捕まえられない状況の中、丸腰でタクシーを拾おうと思った自分はかなり苦労した。昨年も北京出張したが、アプリがなくてタクシーを拾えないほどの不便さを感じることはなかった。今回は中国のアプリ普及の早さを身をもって実感し、すぐに「Didi Chuxing (滴滴出行)」というタクシー配車アプリをダウンロードした。「Didi Chuxing (滴滴出行)」は2012年にサービスを開始、2016年3月の発表データによると、毎日の注文は1,000万件を突破し、毎秒115件の注文を受けるまでに急成長した。

翌日、朝早い便で日本に戻るため、「Didi Chuxing (滴滴出行)」でタクシーを予約したら、すぐにタクシー運転手から確認電話が入った。そして、当日は予定時間の1時間前からアプリのアラームが鳴り、車の移動状況が携帯電話の地図上で表示され、常に確認できるようになっていた。初回利用の感想を一言でいうと「とても便利」である。



図1 アプリのアイコン

2、中国での生活に欠かせない3つのアプリ

中国で暫く滞在している外国人も、多くが図1の「WeChat (微信)」、「Didi Chuxing (滴滴出行)」、「Alipay (支付宝)」という3つのアプリを使っている。

1つ目の「WeChat (微信)」は中国版の「LINE」+「FACEBOOK」と理解すると分かりやすい。もちろん、ファイル添付などの機能もあり、中国ではビジネス上もメールより多用されている。また、「WeChat (微信)」は、後述する「Alipay (支付宝)」と同様の財布機能もついているため、電気、ガス、水道はもちろん、携帯料金のチャージ、タクシー代金、高鉄 (新幹線) のチケット購入など、日常生活に必要なサービス代金の支払いを行うことができる。

2つ目の「Didi Chuxing (滴滴出行)」は前節で述べた通りである。

3つ目の「Alipay (支付宝)」は「アリババグループ」が提供する中国最大規模のオンライン決済サービスである。中国ではモバイル決済が爆発的に普及しており、2016年のモバイル決済額は157.6兆元 (約2,596兆円) であり、2015年より45.6%も増加した。この内、「Alipay (支付宝)」は53.8%のシェアを有しており、現在では商売の規模に関わらず、「Alipay (支付宝)」で支払うことが一般的になり、屋台で羊の串焼きを購入する時でさえ「Alipay (支付宝)」が使用できるようになっている。

近年、中国へ出張に行く度、モバイルアプリの普及状況に驚き、偶に苦労する場面もあった (苦笑)。今後、モバイル決済はさらに普及することによって現金を受け取らない店も出てくるかもしれない。

一般財団法人 日本不動産研究所
研究部 兼 国際部
主任研究員 曹 雲珍

